



FSC®森林管理協議会 COC 認証取得

株式会社 中村製材所

## 《報道資料》

株式会社 中村製材所



**(株)中村製材所が開発した特許商品**

**SKINWOOD®に不燃大臣認定等高付加価値が！**

**不燃に加え、抗ウイルス・抗菌のワンスペックでの提供**

**業界最先端のウイルス・安全対策特許品！！**

この度、株式会社中村製材所(本社:福岡県大川市大字向島 2155 番地1 事業所:佐賀県佐賀市諸富町為重 385-1 代表取締役 中村展章)は、自社オリジナル開発特許商品 SKINWOOD®に国土交通省不燃大臣認定取得致しました。その認定スペックの中に抗ウイルス・抗菌加工を施しており、不燃と抗ウイルス・抗菌がパッケージとなり、**ワンスペックでの高付加価値を付け技術的導入**したことを発表いたします。

この木質製品が今後脱炭素社会への課題解決となることも然り、安心・安全な暮らしを実現することを約束します。

### ◆次世代へ繋ぐ、資源に負荷をかけない「SKINWOOD®」



100 年先、時代を超えてそれより先に繋いでいくこと、資源に負荷をかけないことが SKINWOOD®の役割であり、株式会社中村製材所の社会的ミッションなのです。コンセプトは、【次世代へ繋ぐ、資源に負荷をかけない「SKINWOOD®」】

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 製品名   | SKINWOOD®(不燃・抗ウイルス・抗菌加工)                  |
| サイズ   | 厚6mm 3尺×6尺(900×1800mm),4尺×8尺(1200×2400mm) |
| 基材等   | 火山性ガラス質複層板(ダイライト®)                        |
| 表面化粧等 | 国内外天然木FSC認証材突板並びに地域産材突板                   |
| 認定    | 国土交通大臣認定不燃材                               |
| 価格等   | 21,500 ～ 100,800円(税抜き)                    |
| 納期等   | 受注生産品、正式受注後約30日～40日で出荷                    |
| 発売日   | 2021年 5月末 吉日                              |

昨今、2050 年カーボンニュートラルの実現や SDGs(持続可能な開発目標)の達成には欠かせない森林保全がうたわれております。そのサイクルを持続的に進めるには、森林で伐採した木材を都市・町村部において積極的、さらには有効的利活用していくことが要求されています。

中村製材所は、これまでの木材利用の在り方に限界を感じています。それは保護価値の高い森林資源が、日々世界中で失われていることからです。それに対し日本は豊富な森林資源があります。世界では森林保護に舵を切り、日本国内ではまさに森林の有効活用が求められているのです。

そこで※ FSC®認証材や国産の地域材の小径木に着目し、それを有効的活用した製品次世代突板『SKINWOOD®』を開発しました(特許取得済)。更にワンスペック付加価値(不燃国土交通省大臣認定・抗ウイルス・抗菌加工)をつけることで業界最先端の技術とその存在価値を高めました。この開発の根源は、森林資源の保全や環境を守り、地域の誇りを取り戻すこと、コロナ禍での安全・安心な暮らしをサポートすること、地域経済の活性化(地方創生ブランディング化)等をターゲットとした取組でもあります。これからも中村製材所は、業界最先端となる「先進的戦略」分野での技術開発を目指し、明確な方向性をもって、現場職人の技術と声を反映させていきます。

※ FSC®: 森林管理協議会は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする 弊社 ライセンスコード「FSC®C022549」





## ■ 森林資源と私たち業界の課題

自然の生態系を含む天然林の消失は、今も世界の多くの地域で問題となっています。その原因の一つは、木材・紙等の原料や燃料として使用するための森林資源が、違法に伐採され適切に管理されていないことにあります。私たちの生活や社会・環境を維持するためには、人間の手でコントロールできる数少ない資源の一つである森林を適切に管理運営していかなければなりません。

私たち内装材である突板<sup>1</sup>の業界では、世界各国・国内から選りすぐられた比較的径級(直径)が大きい丸太<sup>2</sup>が使用されてきました。

※突板<sup>1</sup>:天然林を薄くスライスしたもので、例えば天井、内壁、床材(フローリング)家具、ドアなどの表面に貼られているもの。

※丸太<sup>2</sup>:「植林→保育→伐採」が行われている手入れの行き届いた森林から伐採された丸太は除く

## ■ SKINWOOD®の特徴について

- ①FSC 認証材のみならず、地産地消の推進から地域産材の利用が可能。
- ②森林資源の有効利用を可能にした小径木が採用できる新工法。(含む間伐材)
- ③小径木でありながら、小さなブロック(5~15mm厚)で構成されているため、柱目に色調のバラツキが抑えられ美しい木目を広範囲に表現することが可能。
- ④適切に管理された森林からの産出された木材の使用が、世界的に取組が強化されている。すなわち SDG'S の目標 15 に合致している。
- ⑤抗ウイルス・抗菌加工仕上げによる安全・安心な暮らしの実現

## ■ SKINWOOD® 採用にあたり (加工工程等紹介)

SKINWOOD®は、大径丸太そのものからではなく、小径木から突き板へ特殊加工されたものです。すなわち、直径が小さな桧や杉の丸太(小径木)を板にして、ブロック状に加工したモノを接着集合(集成材)させ、ブロックにしたモノの表面を削って、突板に加工した製品です。内装壁材として公共建築部等、広範囲・大量・リフォーム品として可能な製品でもあり、家具材としての機能を有する高付加価値のある製品です。





## 1. 日本国土の森林は増減なし

日本の森林伐採の現状から見ていくと、戦後の人口増加や産業発展、少子高齢化など森林の増減が考えられる変化はいくつもあります。林野庁によると、日本の森林面積は 1966 年から 2017 年の約 50 年で、ほぼ同じ数値をキープしています。

森林面積の内訳を人工林と天然林で見ると、人工林の面積は 793 万 ha から 1020 万 ha と約 2 割増加しており、天然林の面積は約 1 割強減少しています。

森林面積がほぼ変わらないのは、天然林の減少を人工林が補っているからだといえます。

## 2. 森林蓄積は年々増加

森林蓄積とは、森林資源量の目安のことです。

国内森林面積は長年横ばいですが、この森林蓄積は年々増え続けています。つまり、木材として活用できる木が増加していることを示しています。

実際、1966 年から 2017 年までの 51 年間でみると、森林蓄積は約 3 倍に増加しています。また、人工林が占める森林蓄積の割合も 3 割程度から 6 割程度に増えていきます。天然林の伐採と並行して、植樹を行い森林保全に努めてきた成果といえるでしょう。このように、日本には森林資源が充実していますが、森林面積が変わらず森林蓄積だけが増加しているということは、森林伐採の量が減少していることを意味しています。これは、海外の安価な木材の輸入増などを背景に、国内の森林伐採が減少し、活用できる森林資源を活用できていないという背景があるのです。

森林資源として利用できる木々を伐採せずに放置してしまうと、資源として使えない木々が残し、将来的には森林資源が減少してしまうと考えられています。

また、計画的に森林伐採が行われないと、様々な環境問題の引き金にもなります。

### 3. 森林伐採の減少による環境問題

日本では、海外産木材の輸入増加により国内林業が衰退し、森林伐採を含む森林の手入れがまだまだ進んでいません。森林伐採の減少から生じる環境問題については以下のとおりとなるのです。

#### 【地球温暖化防止機能の低下】

森林は二酸化炭素を吸収し、酸素を排出する役割を果たしています。

一見、伐採しない方が地球温暖化の抑制につながりそうですが、樹齢の長い木が残り続ける伐採不足は、温暖化を加速させる恐れがあります。若い樹木が生長している間は、光合成による二酸化炭素吸収量が呼吸の放出量を上回ります。

しかしながら、樹々が成熟すると二酸化炭素の吸収量が減り、排出する二酸化炭素量のほうが多くなります。つまり、資源として活用できる大きさに成長した木を伐採せずそのままにしていると、新たな植樹もできず地球温暖化防止機能は低下していくといえます。小径木の若い木々を植林～伐採までしっかり管理していくことが環境問題の解決とつながるのです。その小径木利用が SKINWOOD®なのです。

また、樹木は二酸化炭素を吸収し、炭素として維持し続けますが、山火事で燃える、害虫に食べられて腐敗した場合、炭素は二酸化炭素に戻り、大気中に再び排出されます。適度な伐採を実施することで、森林の環境が保たれ、こうした地球温暖化リスクを防ぐことも期待できます。

#### 【土砂災害の増加】

伐採など森林の手入れが行われないと、土砂災害が増える可能性も高くなります。

手入れがされている森林は木々の間隔が空いているため、日光が地面まで降り注ぎ下草が成長できる環境が整っています。

しかし、手入れが行き届かなくなると、樹木の葉が生い茂り地表は暗くなり、草が生えず土壌がむき出しになります。この状態で大雨が降ると、保水力が弱いむき出しの土壌は雨を吸収しきれず、雨水は地表を流れ山の土砂が滑り落ちるリスクが高まるのです。

また、雨は一度、葉の密度が高い樹々の上部に留まることになります。雨粒は、重みに耐えられなくなったところで下に落ちますが、通常の雨粒より大きな衝撃を地表に与えます。これも、土砂災害のリスクを高めている要因の一つです。

### 4. 日本は積極的な木材の活用を

森林伐採の減少による環境問題を解決するには、豊富な森林資源を国内の住宅や製紙業などの市場に供給していくことが大切だと考えられています。

日本は 1950 年代まで木材自給率が 9 割以上であり、木材供給の 100%近くが国産

材でしたが、1964 年の木材輸入自由化以降は輸入丸太、1970 年代からは輸入製品や輸入燃料材が国産材を圧迫し、2002 年には木材自給率が過去最低の 18.8%まで落ち込みました。2002 年以降、木材自給率は回復基調にあり、2017 年には 36.1%まで増加していますが、輸入製品・輸入燃料材が木材供給量の過半数を占めている状況は変わっていません。こうした状況を変える方法として、次の 2 ステップが望ましいとされています。

第 1 ステップは、生長を終えた樹木を間伐し、若い樹木の生長を促します。

第 2 ステップは、間伐した樹木を SKINWOOD®仕様の商品へ積極的に活用する。

ということと理解します。この度の開発(不燃・抗ウイルス・抗菌)で安全・安心な暮らしを約束致します。

## 5. 最後に

世界では森林伐採が深刻な問題となっており、植林などにより回復に努めなければならない状態です。一方で日本は状況が異なるということがポイントです。データによると日本では長年森林面積は変わっておらず、それよりむしろ森林環境の整備のために森林伐採が必要とされています。

豊富森林資源はあるものの、木材供給は安価な輸入に傾いており、増えすぎた国内森林蓄積は土砂崩れなどの環境問題を引き起こしています。必然的に国内森林の適度な間伐と、国内産業への有効活用が求められているのです。今後、木材利用促進に繋がる法律化も進むことと考えられます。

### 【SDGs は自分ごと】

無意識に選んだ商品が環境に配慮した持続可能商品(SKINWOOD®)だった。このことをきっかけに SDGs を知ることになれば、次に物を選ぶときの購入視点が変わるかもしれません。そうなることで、自分たちが生きる未来のことを考えるきっかけ(気づき)になる可能性もあります。

### 【エシカル消費(人や社会、環境に配慮した消費行動)の実現】

エシカルブランドに拘る企業の PR として発信。日本ではエシカルへの理解度はまだまだ浸透していないような気がします。実際、“日本エシカル消費推進協議会”が設立されたのは 2014 年。消費者庁にエシカル消費の研究会である「倫理的消費調査委員会」が設置されたのは 2015 年です。ほんの 5~6 年前のことです。このように日本では歴史が浅い、環境に優しい商品を積極的に購入しようという意識が、SDGs ネイティブ世代に自然に生まれていくことを心から願っています。





SDGs ネイティブとなって欲しい次世代やそれよりもっと若い世代を育てていくためには、無理に教えることよりも、選んだものが環境に優しいものであった。そこからスタートしていくことが大切ではないでしょうか。それらは企業の仕事であり、我々大人たちの仕事なのです。

コロナ禍 2020 年 9 月に、就職情報会社ディスコが来春卒業予定の大学生を対象に行った調査結果によると、約 7 割の学生が SDGs を知っていると答えているようです。そして、一番関心があるのが、「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」であること。

ここに SKINWOOD®の存在価値があると思います。今回のリリースについては、タイミングは今しかないと感じ、これからの安全・安心たる生活をするをサポートし、時代の“オイテケボリ”的存在にならぬよう事業邁進してまいります。

いよいよ SDGs に繋がる脱炭素社会に向け木造化・木質化の法律名も改称されます。「脱炭素社会の実現に資するための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」です。弊社開発研究しています SKINWOOD®を建築耐火部材としてさらに加速させていきます。

#### 【民間建物 木造化促す 促進法改正へ】

昨今、自由民主党は、議員立法による「公共建築物木材利用促進法」改正案の骨子をまとめました。現行法では公共建築物に限って木材の利用を促していますが、この対象を民間の建物にも拡大することが柱です。利用期を迎えている国内の人工林の需要確保につなげることや野党にも賛同を呼び掛け、超党派の議員立法として今国会で成立させたい考えです。同法は 2010 年に成立、施行され、国が整備する建築物などへの木材利用を促している。日本の森林は、戦後に植えた人工林を中心に主伐、利用の時期を迎えていることから、民間の建物の木造化も促し、国産材の利用につなげるべきだと判断しています。脱炭素社会の実現に向け、林業や施設整備に携わる事業者の責務を明確化することは、行政(国と地方自治体)と事業者の協定制度を創設し、木材を積極利用する事業者へのインセンティブなど支援措置を講じる事例にもなります。まさしく国の施策と SKINWOOD®研究開発は連動していると考えます。



**今回**、株式会社中村製材所は、経済産業省九州経済産業局における九州SDGs 経営推進フォーラムの「パートナー企業」に選定されました。これは社会課題の解決に向けたソリューションやスキルを有する企業を「パートナー企業」として、当該フォーラムや会員とのパートナーシップのもと、SDGs 経営を推進していくこととなります。森林資源の有効的利活用や保全、環境を守り、地域の誇りを取り戻し、地域経済の活性化(地方創生)等を実施していきます。

中村製材所は、FSC 認証森林や地域産材の「植林→保育→伐採」が行われている森林から供給管理された木材を使用しています。FSC-CoC 認証管理を進め、持続可能性と生物多様性を促進する木材製品を提供し、弊社は今年 16 年目に入りました。この度、私たちは環境に配慮した観点から森林資源と業界の課題を解決する「SKINWOOD®」の製品開発実施し、ワンスペック高付加価値(不燃大臣認定と抗ウイルス・抗菌)を付属いたしました。この取り組みにより、弊社業態を製材所から課題解決型木質サプライヤーへ変容し、世界の潮流でもある SDGs 取組に邁進し、課題を解決していきます。



【本件に関する問い合わせ】

株式会社 中村製材所 担当:古賀

電話:0952-47-3100 FAX:0952-47-3742

E-mail:s.koga@kanejin.jp